未来世代礼拝　小学生 (高) 礼拝説教 11月①

復帰③アブラハム家庭｜アブラハム家庭にかけた神様の願い

　前回、ハムの失敗によって、ノア家庭の救いの摂理はなされなかったというお話をしました。今週は、「アブラハム家庭にかけた神様の願い」というタイトルでお話をします。

人間始祖のアダムとエバが堕落し、神様の願わない世界ができてしまいましたが、人間の歴史の中で、神様の選んだ中心人物を通して、「信仰基台」と「実体基台」を蕩減復帰することにより「メシヤのための基台」を立て、その基台の上にメシヤを迎え、堕落した人間が神様のもとへ戻っていくことができるということを学んできました。

　ノア家庭は、ハムの過ちで救いの摂理をなすことができませんでした。それで神様は、ノア家庭以後の10代、400年後に、アブラハムを呼ばれました。アブラハムは元々アブラムという名前で、お父さんは偶像をつくって売っていました。偶像とは、堕落した人間がつくった、サタンを象徴するものです。

　神様が偶像を売っている家庭の息子を選ばれた理由は何でしょうか？それは、ノア家庭の時、ハムをサタンにうばわれた代わりに、サタンが一番愛する立場にいる偶像商の息子を神側に取り戻し、信仰基台を立てる中心人物にすることでした。

　また、アブラムは信仰深く、神様のみ言をきちんと聞きました。それで神様は、アブラムを救いの摂理の中心人物として立てられ、アブラムの名前を「アブラハム」に変えてくださいました。「アブラハム」とは、多くの国民の父という意味をもちます。

ある日、神様はアブラハムに、ハトと羊と雌牛の三種類の供えものを捧げるようにいいました。そして、供えものを半分にさいて、ささげるように言われました。しかし、アブラハムは、雌牛と羊は、半分にさいてささげましたが、ハトはさかずにささげました。すると、それが罪となってしまったのです。

　アブラハムがハトをさかなかったことが、なぜ罪になったのでしょうか？

供え物をさくということは、神様の側とサタンの側にきちんと分けることを意味します。ところが、ハトをさかなかったために、ハトはサタンのものとなってしまったのです。

　アブラハムがハトをさくのに失敗すると、神様は代わりに、一人息子であるイサクを供えものとして捧げるように言われました。愛する息子を供えものとして捧げなければいけないので、アブラハムは三日間悩み苦しみましたが、決意し、神様の言うことを聞くことにしました。

イサクをしばって祭壇の上にのせ、アブラハムが刀をふりかざしてイサクをさこうとした瞬間、天使が呼んで止めました。愛するイサクを供えものとしてささげようとしたアブラハムの信仰と、イサクの孝情によって、父と息子が神様の前に一つになれたのです。

こうして、アブラハム家庭で、信仰基台の中心人物であるアブラハムの立場を、息子のイサクが受けつぐことができました。イサクは、雄羊を供えものとしてささげ、信仰基台を完成させました。

　さて、信仰基台の次は実体基台の復帰です。これは、イサクの２人の息子たちが成さなければなりませんでした。イサクの長男はエサウ、次男はヤコブという名前で、二人は双子です。神様は、アダム家庭の時と同じように、長男であるエサウをカインの立場に、次男であるヤコブをアベルの立場に立たせました。二人を善悪の立場に分けて摂理されたのです。

　彼らが成長したある日、弟ヤコブは、パンとレンズ豆のスープ一杯で、兄から「長男である権利」を買い取りました。そして、父イサクが、長男の権利を兄エサウに相続しようとしたとき、母リベカの助けによって、弟ヤコブが長男として祝福されました。

これをエサウは悔しがり、ヤコブを殺そうとしましたが、母リベカがヤコブをこっそり逃がしたので、兄弟間の殺人は起こりませんでした。アダム家庭と同じことは起きなかったのです。

ヤコブはおじの家に逃げて、21年間一生懸命働きました。やがてお金持ちになり、結婚して大家族の父となりました。

そうして、弟ヤコブは故郷に帰り、兄エサウに七回おじぎをして、それまでにかせいだ財産を全てあげました。そんなヤコブの姿を見て、エサウもヤコブを許すことができたのです。カインとアベルは一つになることができず失敗しましたが､同じ立場に立っていたエサウとヤコブは一つになることができたので勝利し､兄弟の間に平和がもたらされました。

　これによって、アダム家庭でなされなかった実体基台が、ようやく成されたのです。

アブラハム家庭の摂理は､イサクの家庭を中心として信仰基台と実体基台を成功した立場に立ったので、神様の摂理は進んでいくのですが、アブラハムがハトをさかなかった過ちのために、アブラハムの子孫は400年の間奴隷（どれい）生活をしなければならず、その分、神様のみ旨は遅れることとなったのです。

次回はその奴隷生活の期間で立てられた中心人物、「モーセ」のお話になります。